

第1回 県立高等学校改革懇談会 『小名浜・いわき海星』

日時：平成31年4月26日（金） 16:00～17:30

場所：小名浜高等学校 会議室

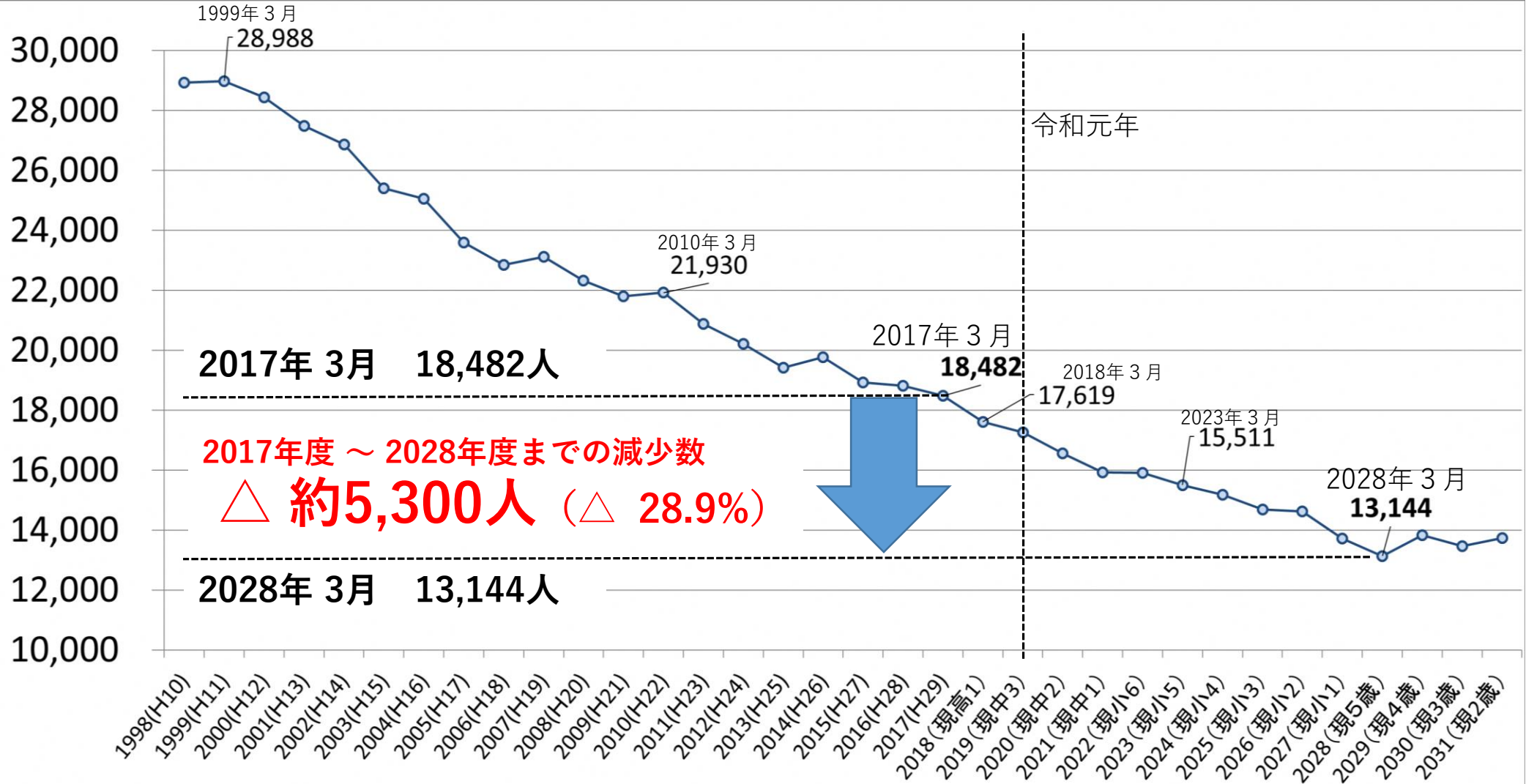
福島県教育委員会

本日の進め方

1	県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯
2	小名浜高校・いわき海星高校における現在の状況
3	今後の再編整備について

少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

中学校卒業（見込）者数の推移（人）

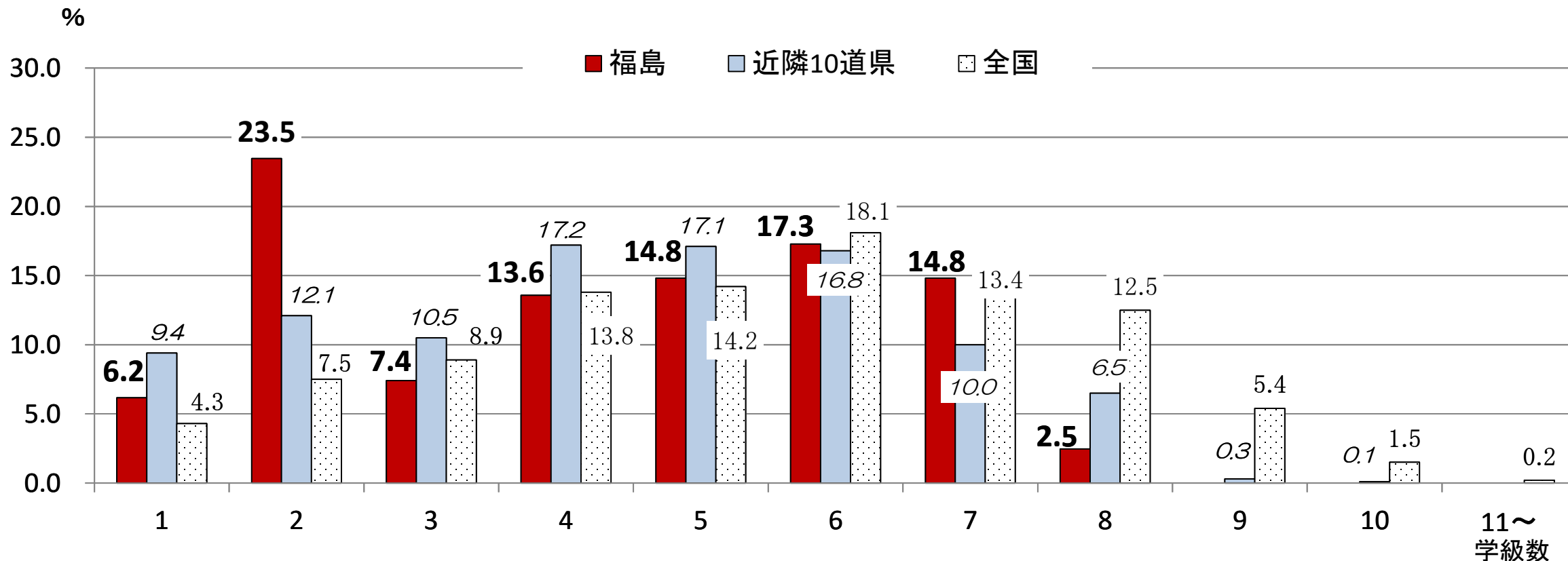


出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

（年3月卒業）

県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）

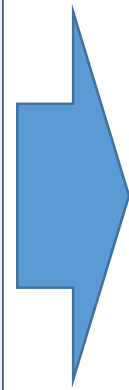


出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣
10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

本県をめぐる社会情勢の変化

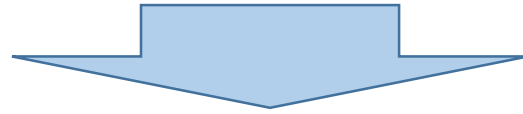
- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**
(中学校卒業予定者数が10年間で約5,300名減少)
- 過疎化・高齢化
(地域コミュニティの維持が課題)
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化
(例：主権者教育の重要性、大学入学共通テストの導入)
- 高等学校の小規模化
(3学級規模以下の高校の増加)
- 生徒の**学習ニーズの多様化**
(学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化)
- **東日本大震災と原子力災害からの復興・再生**
(本県の復興に関わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進)



高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度～2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度～2028年度) 5年間

県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

基本方針1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進

基本方針2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

基本方針3 **学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化**

基本方針4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

再編整備・魅力化の基本的な考え方①

- **学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）**
1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進
- **望ましい学校規模への再編整備の推進**
同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群

進学指導拠点校

進学指導重点校

キャリア指導推進校

職業教育推進校

地域協働推進校

定時制・通信制高校

小規模校のメリット・デメリット

【メリット】

- 学校がある地域の生徒が負担なく通学できる。
- 多様化する中で、少人数を希望する生徒のニーズに合っている。

【デメリット】

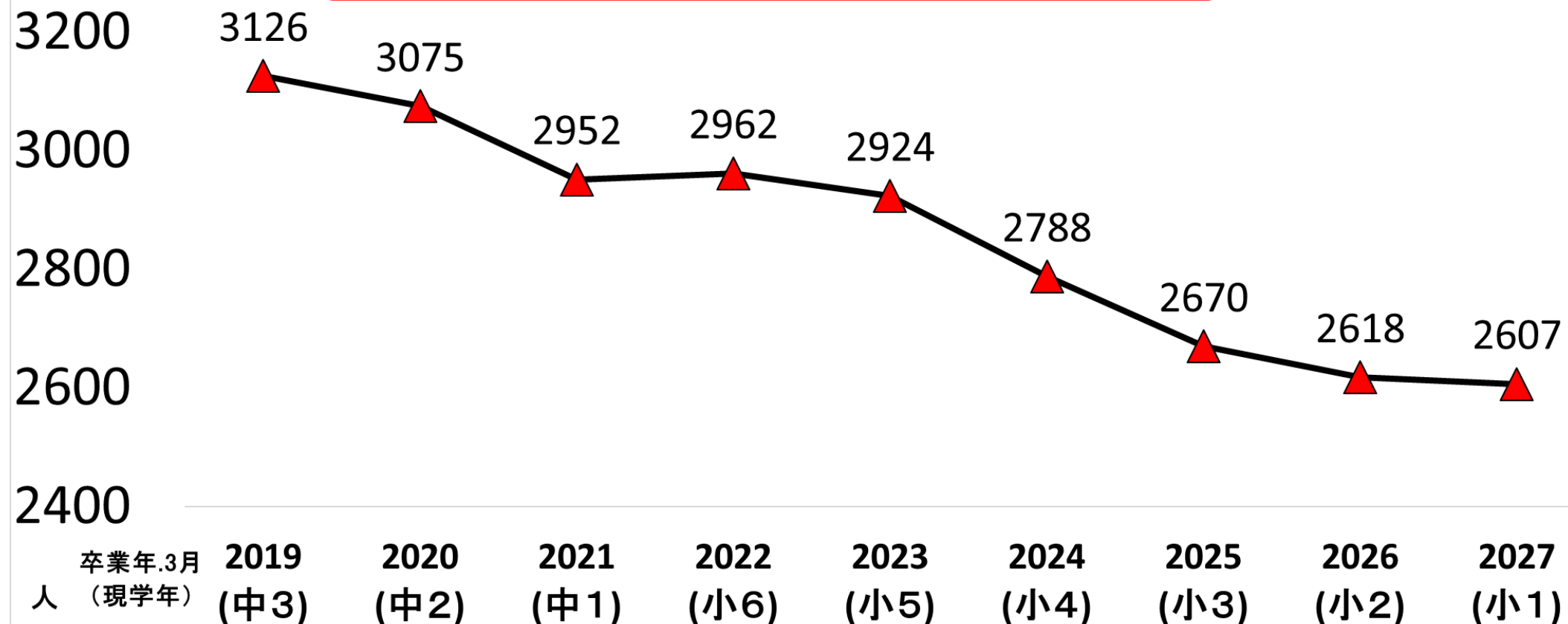
- 一定の集団規模の中で、切磋琢磨しながら社会性や向上心を育むことが難しい。
- 学級数減に伴う教職員数の減少により、多様な科目選択や部活動など学校の教育活動が制限される。

再編整備（統合）による効果

- 一定の集団規模を確保した望ましい学校規模の中で、生徒同士が切磋琢磨しながら向上心を高めながら、人間性を育むとともに、探究的な学びや他学科との連携など、新たな取組をとおしてより深い学びが実践できる。
- 望ましい学校規模とすることによって、教員数が確保され、多様な選択科目や部活動からの選択が可能となる。

少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）

いわき市の中学校卒業見込者数推移



学校の沿革概要等

小名浜高校

○ 沿革（創立113周年）

- ・ 明治40年 5月 町立小名浜実業補習学校 創立
- ・ 昭和25年 3月 福島県立小名浜高等学校となる
- ・ 昭和42年 7月 現在の小名浜下神白字武城23番地に移転
- ・ 平成28年11月 創立110周年記念式典挙行（移転50周年）

○ 設置学科（平成30年度現在）

全日制 1学年2学級 計6学級

- ・ 普通科 1学級
- ・ 商業科 1学級

○ 面積 敷地総面積 51,967.50m²

運動場 16,931m² 建物敷地 21,327m²

その他 13,709.50m²

いわき海星高校

○ 沿革（創立85周年）

- ・ 昭和 9年 4月 福島水産講習所 創立
- ・ 昭和18年 4月 福島県立小名浜水産学校となる
- ・ 昭和23年 4月 福島県立小名浜水産高等学校となる
- ・ 平成 7年 4月 福島県立いわき海星高等学校に改称

○ 設置学科（平成30年度現在）

全日制 1学年4学級 計12学級

- ・ 海洋科 1学級
- ・ 食品システム科 1学級
- ・ 情報通信科 1学級
- ・ 海洋工学科 1学級
- ・ 専攻科（2年間） 海洋科 無線通信科 機関科

○ 面積 敷地総面積 32,761m²

県有地 4,232m² 市有地 28,529m²

進路状況（過去3年間）

学校要覧より

【小名浜高校】

進路先	大学	短大	専門学校	その他	就職	その他 (未定)	合計
卒業年度							
27	4	9	30		62	2	107
28	7	6	23		49	10	95
29	9	3	20		57	2	91

【いわき海星高校】

進路先	大学	短大・専門学校	その他 (専攻科)	就職	その他	合計
卒業年度						
27	4	6	20	79		109
28	6	17	17	73		113
29	6	17	18	88		129

部活動

【小名浜高校】

- 運動部

バスケットボール

バドミントン ソフトテニス

※卓球 ※柔道 ※弓道

※印はH30年4月より部員募集停止

- 文化部

箏曲 演劇 吹奏楽

- 愛好会

陸上競技 **武城太鼓**

【いわき海星高校】

- 運動部

バスケットボール

バドミントン カッター

卓球 柔道 陸上競技

ラグビー サッカー

ウェイトリフティング 野球

- 文化部

アマチュア無線 マリンスタディー

- 同好会

ボランティア **(チームじゃんがら)**

小名浜高校

入学状況

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	160 (普通科120・商業科40)						120 (普80・商40)			80 (普40・商40)			
入学者数	138	139	144	155	108	135	109	108	98	73	66	72	73
普通	106	106	110	118	85	102	80	75	71	40	33	38	35
商業	32	33	34	37	23	33	29	33	27	33	33	34	38
充足率 (%)	86.3	86.9	90.0	96.9	67.5	84.4	90.8	90.0	81.7	91.3	82.5	90.0	91.3

入学状況

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	160 (水産科4学科、各40名)												
入学者数	141	130	123	128	132	135	120	132	136	140	141	139	139
海洋	34	25	23	22	28	28	25	32	31	39	38	33	34
食品シス	30	33	30	37	33	40	28	32	35	34	35	35	35
情報通信	37	37	37	36	31	31	30	29	30	30	31	38	34
海洋工学	40	35	33	33	40	36	37	39	40	37	37	33	36
充足率 (%)	88.1	81.3	76.9	80.0	82.5	84.4	75.0	82.5	85.0	87.5	88.1	86.9	86.9

平成29年度小名浜地区中学校卒業者の高校進学先

(平成29年度卒後の進路調査より)

	卒業者数	進学者数	小名浜	いわき海星	磐城	磐城桜が丘	平工業	平商業	いわき総合	いわき光洋	湯本	磐城農業	勿来	勿来工業	好間	遠野	四倉	定通 他公立・	私立全定通	県外
小名浜一	197	169	14	20	9	12	13	10	15	18	18	3	3	13		2		9	10	9
小名浜二	130	111	5	19	11	5	10	5	5	12	8	2		11		3		6	9	7
玉川	70	55	6	8	2	4	3	5	4	4	2	5		4		2		2	4	3
泉	272	240	10	23	18	15	20	21	23	20	23	18	11	20	2	3		7	6	13
江名	53	49	7	11	1	3	3		7	3	3	4	1	5					1	0
地元中学校計	722	624	42	81	41	39	49	41	54	57	54	32	15	53	2	10	0	24	30	32
地元中学校からの進学割合(%)			6.7	13.0	6.6	6.3	7.9	6.6	8.7	9.1	8.7	5.1	2.4	8.5	0.3	1.6	0	3.8	4.8	4.4
いわき市計	3,204	2,859	71	130	272	274	240	197	191	193	232	157	52	195	79	43	54	146	333	124
いわき市全体からの進学割合(%)			2.5	4.5	9.5	9.6	8.4	6.9	6.7	6.8	8.1	5.5	1.8	6.8	2.8	1.5	1.9	5.1	116	3.9

統合校の方向性

小名浜高校

定員 80名

○ 普通科(1学級) ○ 商業科(1学級)

いわき海星高校

定員 160名

○ 水産科(4学級)

・海洋・食品システム・情報通信・海洋工学

2021年4月開校予定

小名浜・いわき海星統合校（仮称）

定員：200名(5学級) 普通1・商業1・水産3

場所：小名浜高校校舎

水産科実習 → いわき海星高校校舎

統合校（案）のイメージ図

小名浜・いわき海星統合校

県内唯一の水産科を有する職業教育推進校として、他学科と連携した先進的な学びを実践し、地域の未来を担う人材を育てる学校

- 学びの継承と充実

- 『丁寧な学習指導の実践』

- 基礎学力の定着をもとに、個に応じた学力の伸長を目指した学習指導

- 『語学教育の充実』

- 国際港小名浜を有する地域の特色から、国際的な素地を養う

- 学科間連携の探究的学習の実践(クロストレーニング)

- 『商業と水産の学科間連携による地域創生に関する学びを実践』

- 福島イノベーションコースト構想に寄与する人材の育成

- 『先進的な水産教育の実践』

検討する統合校の特色化

丁寧な学習指導

商業と水産
の連携した学び

主体的・対話的で
深い学びの実現

地域と密着した探究的・
実践的な学びの導入

語学教育の推進

今後の予定

会議等のスケジュール

第2回改革懇談会 5月下旬以降

第3回改革懇談会 7月以降
(以降必要に応じて開催)

今後必要となる組織

改革懇談会でいただいた御意見を具現化するための組織

- 教育内容検討委員会（両校の教職員で構成される検討委員会）
- ワーキンググループ（各校の校内検討委員会）